

# めぶきニューヨークレポート

## MEBUKI NEW YORK REPORT

2021年8月号

- ◇ 【調査レポート】再び増加に転じた米国の新型コロナの状況・・・・・・・・・・ P. 1
- ◇ 【NY ライフ】独立記念日・夏のニューヨーク・・・・・・・・・・ P. 3
- ◇ 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・ P. 4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所  
712 Fifth Avenue 8<sup>th</sup> FL  
TEL : +1-347-686-8420  
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



常陽銀行



足利銀行

MEBUKI  
めぶきフィナンシャルグループ

## 調査レポート

### － 再び増加に転じた米国の新型コロナの状況 －

米国では新型コロナ感染が増加に転じていることを受け、ワクチン未接種者間でのパンデミック（大流行）が懸念されています。これにはワクチン接種率の低い地域での急激な感染増加が理由と見られています。このことは、これまでワクチン接種の進捗による経済再開の期待感から堅調に推移してきたマーケットにも影響を与えています。

今回は感染再拡大の状況およびマーケットへの影響等についてレポート致します。

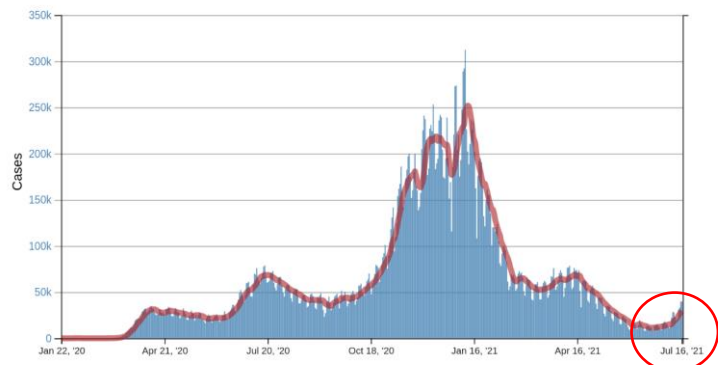
#### 1. 感染拡大の状況

米国では、インドで確認された変異ウイルス（デルタ株）の感染が拡大し、1日当たりの感染者数の平均が前の週に比べて43%と、大幅に増加しています。右下のグラフは2020年初からの米国の新規感染者数の推移を示したのですが、直近では6月20日頃に増加に転じていることが分かります（赤丸の部分）。

CDC（米疾病対策センター）によれば、7日間平均で見た1日当たりの新規感染者数は7月16日時点で約3万人であり、約1万3,000人だった6月末から倍以上に増えています。米国では現状、デルタ株が感染例のおよそ58%を占めると推定されています。1日に報告される感染者数の増加だけでなく、入院した人の数も増加しています。

感染者が10%以上増えているのは全米50州のうち42州と大半にのぼり、中でも、ワクチンの接種率が低い南部や中西部で増加が深刻になっています。これには共和党支持の州での消極的なワクチン接種が背景にあると言われてきましたが、ここ最近ではそうした州でも接種を推進する方向に変わってきているようです。

Daily Trends in Number of COVID-19 Cases in the United States Reported to CDC



(出所：CDC)

#### 2. マーケットへの影響

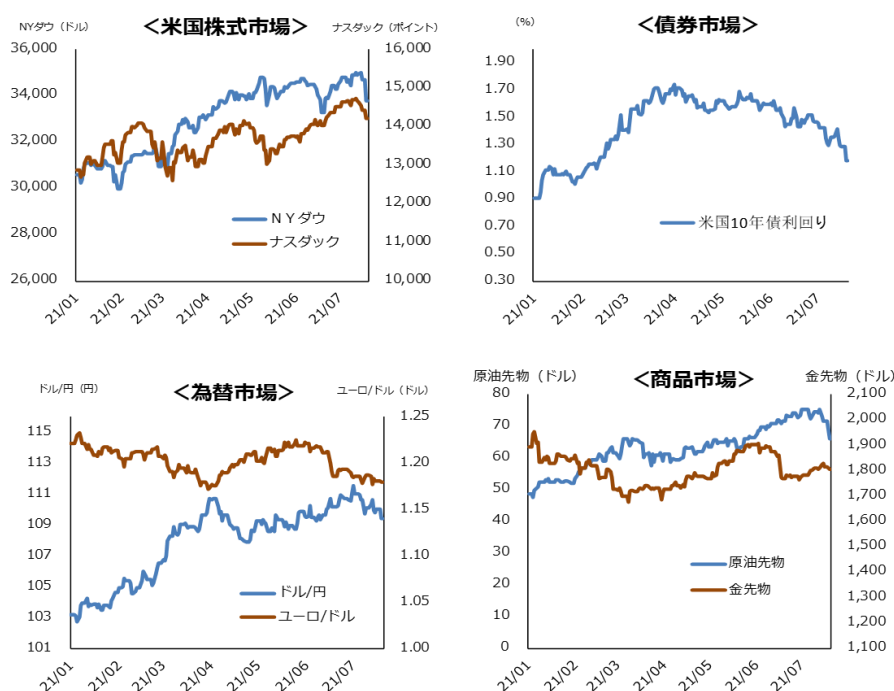
こうした状況の中、米国では今後行動規制が強まる可能性が警戒されており、ニューヨーク (NY) 株式市場でダウ工業株30種平均が大きく下落する場面も見られています。アップルなどIT（情報技術）株のほか、金融、消費関連など幅広い銘柄が売られ、とりわけ大手航空株やレジャー株といった景気変動の影響を受けやすい業種は大きく値を下げた場面もありました。米国株は7月半ばまで経済再開の期待から堅調だった反動から、リスク回避姿勢が強まり、持ち高調整の売りの動きも見られました。

一方で、安全資産とされる債券は買われ、米10年物国債の利回りは一時1.20%を割り

込むまで低下（債券価格は上昇）しました。また、外国為替市場では一時的に円高・ドル安が進みました。

原油価格も大きく値下がりしました。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物の期近物は一時、1 バレル 66 ドル台まで急落する場面もありました。原油需要が鈍化するとの思惑に加え、石油輸出国機構（OPEC）加盟国にロシアなどを加えた「OPEC プラス」で減産幅を徐々に縮小していくことが合意されたことで、供給不安が和らいだのも理由です。

【主要インデックス（今年初から7月19日まで）】



（ブルームバーグデータを元に筆者作成）

3. おわりに

米国では感染力の強いデルタ株が主流となっており、カリフォルニア州ロサンゼルス郡ではワクチン接種の有無にかかわらず屋内のマスク着用を再び義務化するなど、各地で感染再拡大への警戒が強まっています。ワクチン接種の進捗により、主要国の中でもいち早く正常化を目指してきた米国ですが、ワクチンに対して懐疑的な見方をする人も多く、共和党支持の州で接種を推進する方向に変わってきているものの、依然としてワクチン接種率が思うように進んでいないというのが現状です。

NY市では今のところマスク義務化の再導入はしない方針である一方、引き続きワクチン接種が最も必要であるとの認識を示しています。NY市内では若年層や特定の地域での接種率が低く、今後ともワクチン接種率をいかに上昇させるかが課題となりそうです。当事務所では今後とも状況を注視して参ります。

【ニューヨーク駐在員事務所 飯塚 藤郎】

— 独立記念日・夏のニューヨーク —

7月4日は、アメリカの独立記念日です。毎年各地で様々なイベントが開催され、盛大な花火を打ち上げて祝いますが、昨年は新型コロナウイルスの影響で多くのイベントが中止となりました。

ニューヨークでも、昨年は人が密集するのを避けるため、事前に時間や場所の詳細を発表せず、数日に分けて数ヶ所で花火を打ち上げるという方法が取られました。今年は様々なイベントも再開され、毎年恒例の花火も行われるとあって、人々はこの日を心待ちにしていたことと思います。夜になり近所のマンハッタンが見える公園へ行ったのですが、多くの人が集まり花火が上がると歓声を上げていました。長く続いたパンデミックから抜け出し日常を取り戻したことを祝うように、一層盛り上がる独立記念日となりました。



本格的に夏を迎えたニューヨークでは、毎日続く暑さにも関わらず、人々が様々なアクティビティを楽しんでいます。レストランやプール、ビーチ等、今までの分まで楽しむかのように、どこも多くの人で賑わっています。ヤンキースタジアムで行われたニューヨーク・ヤンキースとロサンゼルス・エンゼルスとの試合では、現在投打で大活躍の大谷選手も出場するとあって、多くの日本人観客も応援に来ていました。観客の多くはマスクをしておらず、ワクチン接種証明書や陰性証明書の提示を求められることもありませんでした。

そんな中、州や市では引き続きワクチン接種及び検査を推奨しており、街のあちこちで検査場を見るようになりました。歩道にテントを張った簡易的なものですが、予約をしなくても無料で検査を受けることができ、結果は24時間以内にウェブサイトで確認できます。7月中旬になり、ニューヨークの感染者数、感染率は若干ですが増加傾向にあり、デルタ株も拡大しています。学校の再開や、在宅で働いていた従業員が事務所に戻り人流が増えることで、秋以降再度感染が拡大することも懸念されています。マスク着用などの感染防止を継続しつつ、今夏を楽しみたいと思います。



【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

## ニュース一覧

(2021年7月のニュースを抜粋、日付は Bloomberg 掲載日であり、あくまで参考となります)

### ●政治

- ・NY 市長選の民主党予備選でアダムズ氏勝利、2 人目の黒人市長誕生へ(6 日)。
- ・バイデン大統領の対中強硬姿勢、就任半年で鮮明に(関係悪化の一途か)(14 日)。
- ・米政府、対中経済対話の停止延長(トランプ政権の方針継続)(14 日)。
- ・米国、自動車貿易ルールでメキシコ・カナダと対立(16 日)。
- ・バイデン大統領、ワクチン誤情報拡散めぐり SNS を批判(17 日)。
- ・国務省など、感染急拡大の英国への渡航警戒レベルを最高位に引き上げ(19 日)。
- ・ファウチ所長、(コロナは)良い状況にはならず、我々は間違った方向に進んでいる(25 日)。
- ・米中、首脳会談の可能性残す(26 日の米中次官級会談にて)。
- ・バイデン大統領、各州・自治体あてワクチン接種者に\$100 を支給するよう呼びかけ(29 日)。

### ●金融政策

- ・6 月開催の FOMC の議事要旨が公表され、その中で「テーパリングを開始するための達成基準に向けた進展が続く」と予想(7 日)
- ・FRB が公表した金融政策報告にて、経済の回復完了まで強力な支援継続を表明(9 日)。
- ・FRB のパウエル議長、公聴会にてテーパリングに程遠いと証言(14 日)。
- ・バイデン大統領、最近の物価上昇は一時的と発言(19 日)。
- ・パウエル議長、再任の公算も(来年 2 月任期)(21 日)。
- ・パウエル議長、テーパリングについて「今回の会合で初めて深く掘り下げた議論があった。また、利上げ開始時期はずっと先であることは明白」と発言(28 日)。
- ・FOMC、経済は目標に向けて進展、今後の会合でも精査し続けると声明(28 日)。

### ●経済指標

- ・ISM 製造業総合景況指数:6 月は 60.6 と前月からやや鈍化(予想は 60.9) (7/1)
- ・非農業部門雇用者数:6 月は前月比+85 万人(予想は+72 万人) (7/2)
- ・失業率:6 月は 5.9%と前月の 5.8%から上昇(予想 5.6%) (7/2)
- ・貿易収支:5 月は赤字額が▲712 億ドルと過去 2 番目の大きさ(4 月は▲691 億ドル) (7/2)
- ・コア CPI(除食料・エネ):6 月は前月比+0.9%、前年同月比+4.5%と大幅上昇(7/13)
- ・鉱工業生産総合指数:6 月は+0.4%と予想外に低下(予想は+0.6%) (7/15)
- ・小売売上高:6 月は前月比+0.6%(予想は▲0.3%) (7/16)
- ・住宅着工件数:6 月は前月比+6.3%の 164 万戸(予想は 159 万戸) (7/20)
- ・中古住宅販売件数:6 月は前月比+1.4%の 586 万戸(予想は 590 万戸) (7/22)
- ・新築住宅販売件数:6 月は前月比▲6.6%の 67.6 万戸と 2020 年 4 月以来の低水準(7/26)
- ・消費者信頼感指数:7 月は 129.1 と前月の 128.9 から上昇(予想は 123.9) (7/27)
- ・国内総生産(GDP):4-6 月速報値は前期比年率+6.5%(7/29)

(出所:各種新聞、Bloomberg 等)